

私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

子どもの貧困 広く伝えて

8日付の本紙朝刊は、基礎調査によると、子どもの多い制度である。これから半年を経た「フードバンクおおいた」の実績と代半ば以降、おおむね上昇課題について紹介した。寄附傾向で2012年は16・3%だった。子どもがいる現期限内に配布できるよう管代理されている様子や、フードバンクを知ってもらったが1人の世帯は54・6%に作ったポスターとチラシ、食品に貼るシールもカラー写真で添えられている、分かりやすかった。

者が増加する中、「ひとり

の多い制度である。これから周知が進めば、活用が増加が見込まれるだろう。

フードバンクおおいたを設立した県社協の高橋勉会長が「(貧困への)責任のない子どもたちが、おなかいっぱい食べられる体制づくりを目指したい」と述べている通り、相対的貧困状態にある子どもたちへの支援は必要不可欠だ。少子高



(きよもと・まりこ) 1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。九州弁護士会連合会・犯罪被害者の支援に関する連絡協議会委員。現在子育て真っ最中。

米や缶詰など、これまで「親家庭」の貧困が深刻であるに約4・5割分の食材を市町村の社会福祉協議会や子ども食堂などに提供したと

いう。相対的貧困状態にある母子への支援がフードバンク設立の大きな目的の一つであるが、対象となる世帯が見えにくく、いかに把握していくかが課題であると書いていた。

厚生労働省の国民生活基

効活用できるなどメリット

で伝えていただきたい。

年齢が進む中、子どもたちは人類共通の宝である。子どもたちが、貧困を理由に明るい未来を諦めなければならないような事態は避けなければならない。

その第一歩として、子どもの貧困の深刻さや、フードバンクのような誰もが活用し得る制度を広く伝えることはとても大切だ。紙面が新年の話題に偏りやすい時期に取り上げたフードバンクの実績、課題の記事はインパクトがあった。今後子どもたちの貧困問題や対策などの情報を積極的に紙面で伝えていただきたい。